

審議会委員からの質問及び意見

NO	委員名	ページ	内容
1	飯森 豊水	P2	<p>冒頭部分の「造形芸術（美術系）及び上演芸術（音楽系）」という表現について、上演芸術には演劇や伝統芸能などの広がりがあるため、「音楽、演劇等」と並べたほうが良いと思います。</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。</p>
2	飯森 豊水	P2	<p>次に、「その理由としては、「芸術文化」に対するとらえ方がさまざまで、「芸術文化」は美術館やコンサートホールで鑑賞したりするもの、という認識が強く、文化が身近な日常生活から生まれている、という認識はあまり高いとは言えないからではないでしょうか。」についてです。</p> <p>同じ段落の「令和元年度に行った芸術文化に関する市民意識調査では、」以下の文章から「「芸術文化」に対するとらえ方がさまざま」ということが推測できるというのは正しいと思います。</p> <p>ですが、この議論からは「「芸術文化」は美術館やコンサートホールで鑑賞したりするもの、という認識が強く」という考えを導き出すことは難しいのではないのでしょうか。（私も個人的には、芸術体験を美術館やコンサートホールのような既存の（権威主義的にも感じられる）施設を結びつけないことには賛成ですが。）</p> <p>ここでは、「とらえ方がさまざま」としたあとで、「あるいは「芸術文化」は美術館やコンサートホールで鑑賞したりするもの、という認識が強く（中略）認識はあまり高いとは言えない、といった事情もあるのかもしれない」というように補足的に加えるのであれば無理がないのではないのでしょうか。そうすれば、その後に続く「市民意識調査からは、文化活動にもっと気軽に触れられる機会が望まれているとともに、…」にも自然につながるように思うのですが。</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。</p>
3	飯森 豊水	P5	<p>「4 計画の基本的な考え方」の「（1）市民－芸術文化活動の主役として－」の次の行にある文章についてです。</p> <p>「文化芸術に触れたり、創造、鑑賞、発表の機会があることは」とありますが、私の感覚では、「文化芸術に触れること」を具体的に説明すると、「創造、鑑賞、発表」ということになるのではないかという気がします。であるなら、「文化芸術に触れる、言い換えれば創造、鑑賞、発表の機会があることは」とか、「創造、鑑賞、発表など文化芸術に触れる機会があることは」と言い直した方が自然だと思います。</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。</p>
4	飯森 豊水	P8	<p>「○ 文化情報の収集と活用」のふたつ目の段落は、ひとつ目の段落の言い直しだと思います。できればふたつ目の段落を削除するか、ひとつにまとめてしまう方がよいのではないのでしょうか。すくなくとも「ただし、」で結ぶのは不自然であるように思えるのですが。</p> <p>⇒併列の形に修正させていただきました。</p>

5	飯森 豊水	P9	<p>「調査結果から見える主な傾向」の中の「芸術文化に何を求めるかについて、」ですが、この項目の場合は第2位、あるいはさらに第3位の理由があってもいいような気がします。</p> <p>また、「次世代（子どもたち）へ芸術文化を伝えていく方法」や「芸術文化を享受する場を求めているものの、」についてもアンケートの数値を出した方が客観的で説得力があるように思います。</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。</p>
6	飯森 豊水	P11	<p>「柏市には物故作家を含め多くの地元に根付いた活動を行う美術作家が存在します。」とありますが、これを読んだときに、「物故作家」が「存在する」、つまり（まだ）「生きている」というイメージが頭に浮かんでしまって、ぎょっとしてしまいました。もちろんそういう意図でないことはわかりますが、「柏市にはかつて著名な作家が関わったこともありましたが、いまも地元に根付いた。。。」というふうに分けてしまった方が無理がないように思います。</p> <p>ただ、「地元に根付いた活動を行う美術作家」という表現がどのような意図を持っているかがわかりませんでした。読みようによっては地元に根付かない作家にはあまり価値を見いださないというつもりではないのでしょうか。</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。</p>
7	飯森 豊水	P13	<p>「施策の柱（3）芸術文化活動への支援と連携・協働による文化交流の促進」の中の「施策② 市内の多様な団体・施設等との交流の促進」で何を伝えたいのかわかりづらいです。</p> <p>⇒イメージとしては、人が自然に集まる商業施設等を活用しながら、企画団体や演奏団体が連携を図りつつイベントを鑑賞できる環境を広げていきたいという趣旨となります。</p>
8	飯森 豊水	P13-14	<p>「施策の柱（4） 柏らしさを活かしたまちづくりの推進」の「施策① 柏の強みとなっている芸術文化の充実」ですが、論理展開がわかりづらいです。</p> <p>私案ですが、「柏には全国レベルの市立柏高校があり、レベルの高い小中学校吹奏楽部も多い」→「音楽の街かしわ」でさまざまな吹奏楽関連の企画を実施した」→「柏de吹奏楽ぱ〜り〜（party）♪！」など市民が音楽に触れる機会が増えた」→「さらに強化したい」とまとめてはいかがでしょうか。</p> <p>⇒趣旨としては飯森委員の趣旨と同じ意味合いで作成しているつもりですが、少し加筆させていただきました。さらにご意見がありましたら、同封の意見書にご記入ください。</p>
9	飯森 豊水	P14	<p>施策②ですが、ここよりも「施策の柱（1）」の中に収めた方が自然ではないでしょうか。</p> <p>もし「施策の柱（4）」をさらに充実させるなら、市内の芸術文化に貢献をしている団体名を5つくらい列挙して、こうした団体も「柏らしさ」の一翼を担っているとしてもいいと思います。</p> <p>⇒施策②については、施策の柱（1）とも重なる部分はありますが、「日常アート」と「地域づくり」が今回の計画のキーワード（肝）でもあるため、あえて最後に特出しさせていただいた意図があります。小さな日常の気付きが市民同士の繋がり、地域への思い、柏らしさに発展していくものとして位置付けており、独立した施策として残させていただきたいと考えています。</p>

10	亀岡 浩美	P2	<p>第1章 1 芸術文化の意義と計画の趣旨 冒頭部分に加筆ご提案（赤字部分） 文化は、人々に楽しさや安らぎを与えると同時に、創造性や表現力を育み、気付きを与え、人と人との心をつなげる力を有していることから・・・』</p> <p>※上記ご提案の理由 文化が楽しさや安らぎを与えてくれるのは勿論ですが、それと同時に「新たな価値の創造や気付きを与えるもの」でもあります。それが故に、人と人を繋げたり、まちづくりを考えることに繋がるのだと考えます。 『気付き』が『創造性や表現力を育み』に含まれる、とするのではなく、文化振興が個人的な趣味に留まらず、なぜまちづくりに必要なのか、一步踏み込んだ明確な表現を希望します。</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。</p>
11	亀岡 浩美	P5	<p>第1章4 計画の基本的な考え方 (1) 市民—芸術文化活動の主役として— に加筆ご提案 日々の暮らしの中で、文化芸術に触れたり、創造、鑑賞、発表の機会があることは市民に楽しさや安らぎ、気付きを与える重要な意義があります。 市民が、芸術文化を身近に感じ、芸術文化に親しみことが生活に潤いと気付きを与えるということを認識することで、主体的に鑑賞したり活動を行ったりすること、更には豊かで活気あるまちづくりがなされる 柏へとつながることが望まれます。</p> <p>※上記ご提案の理由 NO,10と同じ</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。</p>
12	亀岡 浩美	P13	<p>施策② 市内の多様な団体・施設等との交流の促進に加筆ご提案（赤字部分） …ホールや美術館に行かなくても身近に感じることでできる環境づくりを推進します。</p> <p>※上記ご提案の理由 各種イベントの例としてアートライン協議会も入っているので、音楽に限らず美術も含まれると思いますので。</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。</p>
13	亀岡 浩美	P13	<p>施策② 市内の多様な団体・施設等との交流の促進 文末近くの団体名表記 「アートライン協議会イベント」 →JR、芸大、4市4区の協議会名であれば、正しくは 「JOBANアートライン協議会イベント」では？</p> <p>⇒計画案に反映させていただきました。(JOBANアートライン協議会イベントの部分を、「JOBANアートライン」とし、「アートラインかしわ」も追記させていただきました。</p>

14	堀 良慶	<p>基本計画ですので市がご担当が自由に活動出来るように作成するのが コツ、基本でこの点でとても良いと思います。</p> <p>民間の趣味の会、ボランティアの会の立場から見ますと市が持つ生データ（行事数、参加者数、来館者数、分野別芸術家数、地域の芸術文化活動家数の年別の把握）がもう少し挿入されてくると理解、迫力、説得が出てくる様に思います。芸術文化を文字数値で表すには、形式値では無く暗黙値であることもあり難しい面があります。その難しい所を数値、文字で表す努力が不可欠の様に思います。音楽の街かしわを謳うのであれば分野別に開催回数、参加者、効果反応（マスコミ掲載数）をコツコツ数値化してゆく努力が必要だと思います。実績評価、例えば他市との比較も良いと思います。でも芸術文化はその地域の基礎的な力の源泉にもなり、企業や行政活動の目に見えぬ力を持っています。少しでも芸術文化の地位を上げる不断の努力が不可欠だと思っています。</p> <p>市の中での芸術文化活動は色々な事情で、発言力、予算とも押され気味で大変でしょうが、一つ一つの行事、事業を工夫、改良、改善を熱心にはかってゆくことこそが地域の特性、特徴に繋がってゆき、その結果に思いもよらない実績、特徴となることもあります。又その努力の結果としてイノベーション的活動、評価にも繋がっていく様に思っています。 柏発の文化芸術がもっとあって良いと思います。 例示レイソル効果</p> <p>地域の芸術文化活動家の中には芸術文化に一石を投じる力を持っている方も見えると思いますし、潜在能力をお持ちの方も見えるでしょう。是非、サポートご活用されることを希望致します。</p> <p>⇒委員おっしゃるとおり、芸術分野においては数値化することが難しい部分がございますが、今後、成果指標の設定などの数値で図っていくことを意識しながら文化行政を進めていきたいと思っています。地域の芸術文化活動家など人材発掘、活用等の貴重な御意見ありがとうございます。今後5年間の文化振興の参考にさせていただきたいと思っています。</p>
15	鈴木 将勝	<p>誰もが芸術文化に触れることのできる機会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②子供たちが芸術に親しむ機会づくり <p>学校の文化祭等＝例＝文化連盟と蜜を図り伝統文化＝お茶席 お琴 日舞の体験教室を図りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭について <p>経費考慮し実行している文化祭、一般参加者は年会費がなくても出演できることを理由に文化連盟を退会して文化祭に出演している団体あり。しかし文化の発展には皆同じレベルでの協調性が大切と考える難しさ。</p> <p>オープニング等ではここ数年、小、中学校の吹奏楽演奏も取り入れており好評、これを継続と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 柏らしい町づくり推進 <p>市民が誰しも楽しみな音楽の一大イベントを開催</p> <p>第5次芸術文化振興計画は内容の充実した計画と思います</p> <p>⇒今後5年間の計画を推進していく中で、各事業の取組として今後ともご意見をお願いいたします。</p>

16	林 久美子		<p>第五次「柏市芸術文化振興計画案 全て拝見致しました。内容についての異議はございません。</p> <p>今、コロナ禍の中で芸術家の動きが制約され我慢の日々を送っております。コロナが明け明るい兆しが見えた頃、私達の芸術活動は勢いよく動き出すと思うと同時に、どの様な形で行っていくかを整理して考えていかなければと思っております。</p> <p>柏市文化課の「文化祭」「学生達による吹奏楽」「プロに音楽イベント」「美術展示会」を軸に1つ1つをていねいに紐解きながら計画を立てておく必要があると思います。</p> <p>振興計画案自体に問題はございませんが、音楽で「吹奏楽」が全面に出ている感じが致しますが、プロの演奏家の場をもっと増やして頂きたい（ボランティアで）→やはりステージに重みが出ますし、客層も増えると思います。</p> <p>「文化祭」は近年は若い人材が育っているのを感じます。（芸術鑑賞会は圧巻でした。）「文化祭」音楽部門も新旧交替を考えております。私は幼少の頃から文化祭に参加し、この伝統を是非繋げていきたいと常々思っております。</p> <p>コロナが明け、人々が動き出した時、文化活動で市民の皆様喜んでいただけるものを提供し、音楽・美術を含め、「芸術のまち」づくりをしていきたいです。</p> <p>「発信方法の工夫」(P8)は大事なことと感じました。</p> <p>⇒委員の御意見を踏まえ、この先5年間の文化振興を進めていきたいと思っております。</p>
17	出浦 真緒梨	P7 P. 10	<p><施策体系>(3)①におきまして、「芸術分文化事業を支える人材の育成」とありますが、芸術活動を行なう「担い手」の育成に比べますと明確な定義や記載が資料内ないように思います。</p> <p>「○人材の育成」の記載も、子どもたちの育成とアーティストの育成についての記載で、支える人材については記載がありませんし、施策の詳細が記載されているP13に活動を支える人材に対する支援を行うとありますが、具体的なイメージがつきづらいです。</p> <p>「芸術文化事業を支える人材」は何に当たるのか不明瞭なのですが、そこを掘り下げることで可能性が広がるのではないのでしょうか。</p> <p>市民が芸術文化活動に参加することにあたって、各々が芸術活動を自ら行うかは適正や好みもありますし、必ずしも発信者にならないといけないわけではないと思います。むしろ、支える側であれば参加したいという人もいないのではないのでしょうか。そして、支える側として参加することで当事者意識が生まれるとともに、鑑賞する側としてもコアなファンになっていくように思います。</p> <p>⇒P13(3)①に「芸術文化事業を支える人材の育成」について具体的文言を加筆させていただきました。</p>

18	出浦 真緒梨		<p>また、活動の広め方ですが、広告主のマーケティングより親しい人の口コミの方が購買欲求を上げるそうです。それと同様に、支える側としての活動をしている人が身近にすることで芸術活動が広まっていくというのが、地域に根付いた活動としては向いている気がします。そのようになっていく土壌として、文化財管理やコンサート運営のボランティアなどを積極的に募集してみることや、今まで思い付かなかった分野との協力なども視野に入れることも有効かと思います。</p> <p>他の分野との協力としまして、例えば、私は今の職業としてはシステムエンジニアをしていますが、心理学を卒業しており、社会人になってからも産業カウンセラー資格と中央労働災害防止協会の心理相談員資格を取得していて、働く人のメンタルヘルスやカウンセリングなど心理関係のことに興味があります。アンケート調査で73.9%が芸術文化は「心の癒やし」と答えたことに、私は自分が興味があり携わってきたい心理分野との繋がりを感じました。</p> <p>深く悩む方は感受性が豊かであったり芸術分野との相性が良いパターンもあり、カウンセリングで癒されていく部分もあれば、ワークショップに参加したり芸術鑑賞したりすることを日常に取り入れることで精神の健康を保っていく方もいるのではないかと思います。そういう方に心理分野から一手段として地域の芸術活動の紹介をするなど繋がりを持てればと思っています。</p> <p>⇒今後5年間の計画を推進していく中で、より多くの市民に多様な視点から芸術文化に関わっていただけるよう、御意見を参考にさせていただきます。</p>
19	手塚 ナツ子		<p>令和2年3月以後は、全てに優先してコロナ禍の大きなうねりに巻き込まれ、「文化・芸術」という言葉も実態も遠くへ押しやられた感があります。ヨーロッパ等においても、初期には金銭面の保障なども「文化・芸術」活動に対して手厚くなされ、歴史の長さや人々の意識の高さに、正直かなわないという気持ちがありました。</p> <p>しかし夏以後は、人々の意識と欲求が、「コロナ対策」の成否の1点に絞り込まれ、他のことは二の次、三の次となって現在の「緊急事態宣言」に至っているように思えます。このような中での「第五次柏市文化芸術振興計画」となると実現に向けてのベクトルが本当にどこを目指せばいいのか戸惑いがあります。「音楽街かしわ」の方針は基本として、状況に応じて対応していくしかありません。</p> <p>現状では、この計画案に書かれている内容を少しでも前に進めるしか方策はないと思っています。</p> <p>⇒御意見ありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大の影響がどのように影響してくのか本当に先が見えにくい状況ではありますが、できることを模索しながら文化の振興を進めてまいりたいと思っております。</p>

※事務局より

事務局	P5	<p>事務局としては、この部分で各々の主体（市民、芸術文化団体、市等）がそれぞれの役割を果たしながら連携していくと考えており、芸術文化振興のなかでの市民の役割とは何か、可能ならもう少し踏み込むことができたらと考えています。「主体的に鑑賞したり、活動したり活動を行ったりすること」とありますが、鑑賞する立場としては、コンテンツに魅力がなければ機会自体がないということになってしまうのではないかと、価値を一方向（「〇〇すべき」のような）にそろえることの難しさを感じています。その辺りについて御意見をいただくと助かります。</p>
-----	----	--